

教育下越

新潟県教育庁下越教育事務所
https://www.pref.niigata.lg.jp/kyoiku_kaetsu/
令和 8 年 1 月 7 日発行 第 394 号



1 面：所長あいさつ
2 面：教科教育専門監事業、食物アレルギー発生状況

失敗から学習する組織

所長 田中 一史

あけましておめでとうございます。今年は午年。千里を駆ける名馬のごとく、勢いとしなやかさをもち、時につまづくことがあっても、それを糧にまた走り出す、そんな力強い一年になることをお祈りいたします。

あまり新年に相応しくないかもしれませんが、Matthew Syed マシュー・サイド「**失敗の科学 - 失敗から学習する組織、学習できない組織-**」(Discover21) 2016 から引用します。

人は誰でも、自分の失敗を認めるのは難しい。ほんの些細な失敗でさえそうだ。友達同士の気楽なゴルフでさえ、自分のスコアが思わしくないと不機嫌になる。だから、仕事、親の役割など、自分の人生にとって重要なことで失敗を認めるのは、もう別次元の難しさになる。(略)

社会全体で考えても、失敗に対する姿勢は矛盾している。我々は自分の失敗には言い訳をするくせに、人が間違いを犯すとすぐに責め立てる。(略) 誰も当事者の立場に立って、「何か複雑な原因があったのかもしれない」などとは考えない。その結末はとてもシンプルだ。誰もが失敗を隠すようになる。学習に欠かせない貴重な情報源を、活用することもないままに葬り去ってしまう。

本書では、航空業界と医療業界を比較しています。航空業界は、事故が起きると調査組織がブラックボックスを回収し、徹底的に原因を究明します。そのため、非常に低い事故率を達成しています。それに対し医療業界は、上記のようにその失敗が隠ぺいされ、医療過誤が見過ごされる場合があると指摘しています。

さて、学校はどちらに似ていると思いますか。私は、学校は、やや医療業界に似ているのではないかと思っています。学校はもっと、失敗から学習すべきではないでしょうか。

ぜひ、皆さんに紹介したい事例があります。

A 学校の体育授業、跳び箱での事故です。子どもが台上での着手に失敗し、片手を複雑骨折する事案が発生しました。通常通り、事故報告書が、市町村教委経由で下越教育事務所に提出されましたが、A 学校からの報告書には、別紙が添付されていました。別紙には、次のタイトルが明記されていました。

大切な命を預かっているという 自覚を高めるために

○学年跳び箱運動における傷害事故から
学校の安全管理を考える

そこには、校長による詳細な事故分析と再発防止策が記されていました。この別紙を用いて、校長自ら職員研修を実施したと聞きました。失敗を貴重な学習の機会と捉え、同じ失敗を繰り返すまいとする強い思いに感銘を受けました。

誰にでも失敗はあり、できればその失敗を人に知られたくないと思っています。しかし、その失敗から多くの教職員が学ぶことができれば、同じ失敗の防止に役立つはずです。

失敗から学習する組織に向け、教職員には、「自分の失敗が、未来の事故から子どもを守る」というマインドセットが必要です。そして、管理職には、「失敗を責められない」職場づくりが求められます。それによって、教職員は、自らの小さな失敗も、安心して語ることができるようになるからです。

バスケットボールの神様、マイケル・ジョーダンの有名な言葉を紹介します。

私は 9,000 本以上シュートを外し、ほぼ 300 試合で負けた。ウイニングショットを任されて外したことは 26 回ある。何度も何度も何度も失敗した。だから、私は成功したのだ

Nike-CM 「Failure(失敗)」1997

失敗は「してもいい」ではなく、組織にとって「欠かせない」ものです。失敗を共有し、そこから学習することによって、学校はより強く、確実に前進していきます。

教科教育専門監事業

教科教育専門監は、勤務校にしながら、特定の曜日を中心に、授業支援や研修会開催等をおして、各地域や学校における先生方の教科指導をサポートしています。現在、管内には5教科12名の教科教育専門監が配置されています。

氏名	教科	所属校
小田 駿介	社会	村上市立岩船中学校
田村 遼	社会	聖籠町立山倉小学校
三代 大悟	算数・数学	聖籠町立亀代小学校
鈴木 圭輔	算数・数学	村上市立朝日中学校
増子 沙織	算数・数学	新発田市立猿橋中学校
本間 裕輝	理科	新発田市立豊浦小学校
渡邊 裕規	理科	新発田市立本丸中学校
宇尾野 卓巳	理科	阿賀野市立安田中学校
飯岡 真里	外国語・英語	五泉市立五泉南小学校
大滝 裕	外国語・英語	村上市立村上南小学校
羽貝 幾生	外国語・英語	聖籠町立聖籠中学校
川上 大雅	道徳	佐渡市立加茂小学校

具体的な業務としては、要請校での授業参観及び助言、単元構想や指導案作成の支援、小教研や中教研等での講義及び公開授業での指導、初任者を含む若手教員への研修等があります。

専門監の強みは、自らも授業を行っているため、授業者の立場で、要請側のニーズに応じた専門的かつ具体的な支援ができることです。

サポートを受けた先生方や訪問校からは「専門監から、授業に資する資料や教材の提供をしていただき大変役立っている。」「当校は、〇〇科の教諭が一人であるため、授業力向上の点で、専門監からの助言が大変ありがたい。」等の感想がありました。

一方、専門監からは「訪問校では、相手のニーズを踏まえて授業支援を行いました。支援を重ねるに連れ、前向きに授業改善に取り組む姿が見られるようになりました。専門監としてのやりがいを感じています。」「他教科の専門監との情報交換から新たな気付きを得ることができました。自身の実践に生かしています。」等の感想がありました。

県教育委員会では、今後も教科教育専門監事業をとおして授業改善を推進していきます。

〈令和8年度教科教育専門監事業について〉

- 4月に、訪問希望を募集するチラシを配付します。積極的に御検討ください。
- 専門監が、訪問希望校や支援希望者と連絡をとり、支援内容や訪問期日、回数等について打合せを行い、確定次第、支援を開始します。

食物アレルギーの発生状況と未然防止について

R7年度下越管内食物アレルギー報告件数
(疑いを含む) 12月24日現在

	給食	その他
発症	19	6
(内 誤食)	(3)	(1)

- ・校種別発生件数：小学校20件、中学校5件
- ・その他の内訳：修学旅行、調理実習、朝食

誤食の原因は、本人、教職員、保護者の思い込みや確認ミスによるものです。

【給食誤食事例1】

主菜にアレルギー原因食物が入っていたが、汁物に原因食物が入っていると勘違いし、家から汁物の代替食を持参した。

【給食誤食事例2】

食器に除去食が盛り付けられていると勘違いした。

事例の2件とも、本人や保護者と複数の教職員がチェックを行っていれば誤食に至らなかったと考えます。食物アレルギーに関する事故を未然に防止するためには、全ての学校で体制を整備しておく必要があります。「学校給食における食物アレルギー対応指針」(文部科学省)の「Ⅲ 総論 4 学校がとるべき対応」に以下の点について記載されています。



- ① 食物アレルギー対応に関する基本方針策定
- ② 組織で対応し、学校全体で取り組む
- ③ 教職員の役割例
- ④ 対応環境やマニュアルの整備
- ⑤ 緊急時対応体制の整備と確保
- ⑥ 教職員への啓発と役割分担
- ⑦ 保護者・学校間の連携
- ⑧ 研修会の実施
- ⑨ すべての事故及びヒヤリハット事例の報告

対応の詳細についても記載されているので、ぜひ御活用ください。

多くの学校で、食物アレルギー対応研修、校内マニュアルや個別の取組プランの作成、そして毎日のチェック等、丁寧な対応が行われています。しかし、誤食事案は発生しています。児童生徒の生命に関わるということを忘れずに、引き続き、学校全体の組織的な対応による事故防止に努めてください。